

税金の使い道を変える戦いです

身の丈にあった財政運営で神栖とのサービス格差解消に全力



このまま、豪華市役所の建設やバブルプロジェクトにお金をつぎ込み続けるのか？財政の健全化を図り、公共料金の値上げを抑え、神栖市とのサービス格差是正に取り組むのか。戦いで

バブルプロジェクトは いららない！

「財政のプロ」を自称する市長の4年間の財政運営によって、国民健康保険料をはじめとする公共料金は次々に値上げされ、市民サービスは切り下げられてきました。青少年協など、民間の活動を応援する補助金も削り続けられてきました。神栖市とのサービス格差は広がり、公共料金が安く福祉や子育て支援の手厚い神栖へ、銚子からの移住が続いています。これが「財政のプロ」の成果なのでしょう。

一方、少子化が進む中で「過剰」とも思われる学校給食センターが、津波や洪水の危険性の高い民有地を購入して作られるなど、将来展望を無視した箱物づくりによって銚子市の借金は膨らみ続けています。地方債現在高は328億円に達し、神栖市（199億円）の1.3倍。企業会計・特別会計を加えた銚子市の借金は540億円におよび、市民1人あたり77万円の借金をしている計算です。市の財政を圧迫する大きな要因になっています。さらに次の公約では、多額の借金をせまるバブル計画が白押しです。

サービス格差で町を選ぶ 銚子から神栖への人口流出

1月31日、NHKテレビで放送された「プロジェクト2030・人口移動を「子育て」が決める」は銚子市民にとって衝撃的な内容でした。子育て支援や福祉などの「行政サービス格差」によって銚子から神栖へ次々と人々が移り住み、銚子の人口流出が続いている実態が取り上げられました。

人口移動の理由として着目したのが「子育てのしやすさ」です。神栖市は銚子市に比べて、保育所の保育料が2割安く2人目は半額、3人目は無条件で無料。子どもの医療費助成も銚子市が小学3年生までに限られているのに対して、神栖市は

健全経営の努力で病院の赤字削減 市役所・消防庁舎の新築も再精査

一方で、強固な地盤や高台の安全性、治安の良さなど、

文を超えた箱物づくりや、オトモタチへの利益供与と思われるような支出はやめ、財政の健全化を図らなければなりません。かつては数十億円あった市の貯金、財政調整基金は今では4千万円になり、国民宿舎の売却をアテにしなければ、予算も組めない状態です。

	銚子市	神栖市
小学校給食費(月)	4,150円	2,200円
中学校給食費(月)	4,870円	2,400円
子ども医療費助成	小学校3年生まで	中学校卒業まで
保育料	—	銚子市より2割安い 2人目は半額、3人目は無条件で無料
国民健康保険料 ※給与収入320万円	40万3799円	35万2200円
福祉バス	—	60歳以上はバス無料
妊娠・出産祝い	なし	子1人ごとに2万円
チャイルドシート支援	なし	あり
住民票交付手数料	300円	200円
下水道料金(20㎡)	2,415円	2,205円

かつては数十億円あった市の貯金、財政調整基金は今では4千万円になり、国民宿舎の売却をアテにしなければ、予算も組めない状態です。ハコモノがすべて悪いと言っているのはありません。体育館や学校の建て替えの時期は来ています。必要なハコモノは中期・長期の計画を立てて、ランドデザインを描いて、整備を進めていくべきです。しかし銚子の財政の実力を超えて作られることはあきらめるべきです。

銚子市の40万人に対して神栖市は35万人。神栖市では60歳以上の市民に「福祉バス」が発行され、民間バスの利用が無料になります。

17年後の2030年に神栖市の人口は今より4000人増加、逆に銚子市は30%減少し4万8千人を下回るという推定も示されました。

市役所・消防庁舎の新築も再精査

銚子市立病院に年間10億円の補助金を支出

